

黒田禮一 小説評論家。明治二十二年一月二十八日高知縣生れ、昭和十八年四月二十八日没（二八〇—一九四三）。本名岡上守道。筆名ニ咲生、岡上ニ咲、岡上生、禮一ニ生等。大正五年東京帝國大學法科大學經濟學科卒。渡歐し、ベルリン滞在中の十二年朝日新聞社入社、特派員となる。昭和十一年歸國後退社して『白濁旬刊』發刊。十五年中野正剛の訪獨に通譯として同行。十七年寶篋總選舉に無所属としてつとむ落選。また『土陽新聞』、『高知新聞』で論説を擔當してゐたが、翌年ボルネオ渡航中に乗船を撃沈せられ枉死した。

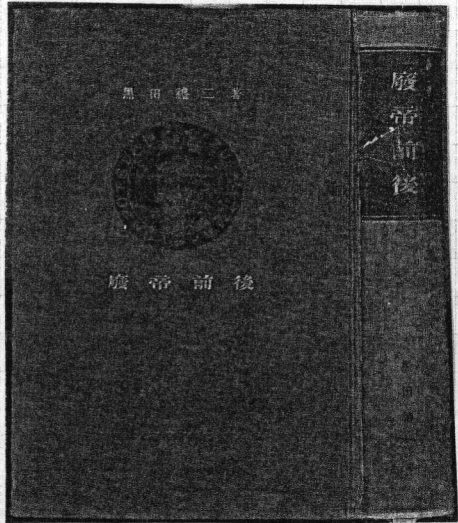
著書『若き日のために』繪と歌と物語』（岡上ニ咲名、野口精子共著、大正六年十一月二十一日警醒社書店）、『渦激派』（麻山改介共著、大正六年十一月二十一日警醒社書店）、『片島新共

著・石川六郎編、大正八年六月十八日民友社「新時代叢書」）、エッチ・コオル著『^{産業}自治とギルド社會主義』（谷島勝太郎共譯、大正九年五月二十日國文堂書店）、フランス・オツペンハイター著『國家論』

（本名、譯、大正九年五月二十八日大鏡閣）、『蝙蝠日記』（大正十一年十一月二十五日大鏡閣）、
ゲエルンスト・トラグ
ゲオルグ・カイザヤ

『集』（譯、大正十二年十一月八日叢文閣）、『廢帝前後』（昭和六年一月二十五日中央公論社）、レマルク作『その後の来るもの』（譯、昭和六年七月五日大阪・朝日新聞社）、

『革命の二人男』（昭和八年五月十七日千倉書房）、『金世紀の始まる頃』（コロングスの評傳）』（昭和九年二月十一日千倉書房）、『貞操史以前』（昭和十年十一月十二日千倉



（昭和十年十一月十二日千倉書房）、『貞操史以前』（昭和十年十一月十二日千倉書房）、『金世紀の始まる頃』（昭和九年二月十一日千倉書房）、『貞操史以前』（昭和十年十一月十二日千倉書房）

書房)、「獨裁王ヒットラー」(昭和十一年四月)、「十五日新潮社」新
 傳記叢書」)、「妖姫ロウ・モンテスー紅毛好色一代女」(昭和十)
 年七月)、「二十一日河出書房」記録文學叢書」)、「コゲルマン民族物語」
 ドイツ神話」(昭和十五年十一月)、「二十日大日本^{法令}出版株式會社」)、「躍
 進ドイツ讀本」(昭和十五年十二月七日新潮社)、「總統ヒットラー」
 (昭和十六年五月十四日新潮社)、「燃ゆるロンドン」(昭和十六年
 十月十五日新興亞社)、「^海放浪者」コロンブス傳」(昭和十六年十一月
 十五日如風書房)等。